

二四六	同(藤田一君外二名紹介)(第九九七号)
二四七	同(福水健司君紹介)(第九九九八号)
二四八	同(福水健司君外二名紹介)(第九九九八号)
二四九	同(桂木鉄夫君紹介)(第一〇〇〇号)
二五〇	同(藤井勝志君外二名紹介)(第一〇〇一号)
二五一	同(藤枝泉介君紹介)(第一〇〇二号)
二五二	同(藤尾正行君外四名紹介)(第一〇〇三号)
二五三	同(藤山愛一郎君紹介)(第一〇〇四号)
二五四	同(船田中君紹介)(第一〇〇五号)
二五五	同(船田中君外四名紹介)(第一〇〇六号)
二五六	同(古井喜實君外一名紹介)(第一〇〇七号)
二五七	同(古川丈吉君紹介)(第一〇〇八号)
二五八	同(古川丈吉君外一名紹介)(第一〇〇九号)
二五九	同(古屋亨君紹介)(第一〇一〇号)
二六〇	同(古屋亨君外四名紹介)(第一〇一一号)
二六一	同(古屋亨君外三名紹介)(第一〇一二号)
二六二	同(保利茂君紹介)(第一〇一三号)
二六三	同(保利茂君外二名紹介)(第一〇一四号)
二六四	同(坊秀男君外四名紹介)(第一〇一五号)
二六五	同(益谷秀次君外二名紹介)(第一〇一六号)
二六六	同(堀岡博之君外一名紹介)(第一〇一七号)
二六七	同(松田竹千代君外四名紹介)(第一〇一八号)
二六八	同(松田竹千代君外一名紹介)(第一〇一九号)
二六九	同(三池信君外二名紹介)(第一〇二〇号)
二七〇	同(三原朝雄君紹介)(第一〇二一号)
二七一	同(箕輪登君紹介)(第一〇二三号)
二七二	同(水田三喜男君外二名紹介)(第一〇二四号)
二七三	同(水野清君外二名紹介)(第一〇二五号)
二七四	同(湊徹郎君紹介)(第一〇二六号)
二七五	同(宮澤善一君外一名紹介)(第一〇二七号)
二七六	同(武藤嘉文君紹介)(第一〇二八号)
二七七	同(武藤嘉文君外一名紹介)(第一〇二九号)
二七八	同(武藤嘉文君外四名紹介)(第一〇三〇号)
二七九	同(村上勇君外三名紹介)(第一〇三一號)
二八〇	同(村山達雄君外六名紹介)(第一〇三二號)
二八一	同(栗山秀君紹介)(第一〇三三號)
二八二	同(森清君紹介)(第一〇三四號)
二八三	同(森下國雄君外四名紹介)(第一〇三五號)
二八四	同(森田重次郎君紹介)(第一〇三六號)
二八五	同(森田重次郎君外二名紹介)(第一〇三七號)
二八六	同(森山欽司君外一名紹介)(第一〇三八號)
二八七	同(森山欽司君外三名紹介)(第一〇三九號)
二八八	同(森山欽司君外四名紹介)(第一〇四〇號)
二八九	同(八木徹雄君外一名紹介)(第一〇四一號)
二九〇	同(山口喜久一郎君外四名紹介)(第一〇四二號)
二九一	同(山口敏夫君紹介)(第一〇四三號)
二九二	同(山崎巖君紹介)(第一〇四四號)
二九三	同(山下元利君外二名紹介)(第一〇四五號)
二九四	同(山手滿男君外三名紹介)(第一〇四六號)
二九五	同(山手滿男君外二名紹介)(第一〇四七號)
二九六	同(山村新治郎君外二名紹介)(第一〇四八號)
二九七	同(吉田重延君紹介)(第一〇四九號)
二九八	同(吉田重延君外六名紹介)(第一〇五〇號)
二九九	同(早稻田柳右エ門君紹介)(第一〇五一號)
三〇〇	同(渡辺栄一君外四名紹介)(第一〇五二號)
三〇一	同(渡辺肇君外二名紹介)(第一〇五三號)
三〇二	同(渡辺美智雄君外四名紹介)(第一〇五四號)
三〇三	同(小澤太郎君紹介)(第一〇五五號)
三〇四	同(岡本茂君外一名紹介)(第一〇五六號)
三〇五	同(大竹太郎君紹介)(第一〇五七號)
三〇六	同(塚田徹君外一名紹介)(第一〇五八號)
三〇七	同(三ッ林弥太郎君紹介)(第一〇五九號)
三〇八	同(大野市郎君紹介)(第一一〇〇號)
三〇九	同(岡澤完治君紹介)(第一一〇一號)
三一〇	同(小平忠君紹介)(第一一〇二號)
三一	同(坂村吉正君紹介)(第一一〇三號)
三一二	同(斎藤寿夫君紹介)(第一一〇四號)
三一三	同(吉田賢一君紹介)(第一一〇五號)
三一四	同(西村榮一君紹介)(第一一〇六號)
三一五	同(小山省二君紹介)(第一一〇七號)
三一六	地方公務員の定年制法制化反対に関する請願(淡谷悠蔵君紹介)(第一一〇八號)
三一七	同(稻村隆一君紹介)(第一一〇九號)
三一八	同(大出俊君紹介)(第一一一〇號)
三一九	同(木原実君紹介)(第一一一一號)
三二〇	同(山本弥之助君紹介)(第一一一二號)
三二一	同(赤路友藏君紹介)(第一一一三號)
三二二	同(安宅常彦君紹介)(第一一一四號)
三二三	同(淡谷悠蔵君紹介)(第一一一五號)
三二四	同(井岡大治君紹介)(第一一一六號)
三二五	同(石野久男君紹介)(第一一一七號)
三二六	同(板川正吾君紹介)(第一一一八號)
三二七	同(稻村盛一君紹介)(第一一一九號)
三二八	同(江田三郎君紹介)(第一一二〇號)
三二九	同(小川三男君紹介)(第一一二一號)
三三〇	同(大出俊君紹介)(第一一二二號)
三三一	同(大柴滋夫君紹介)(第一一二三號)
三三二	同(岡田利春君紹介)(第一一二四號)
三三三	同(加藤勘十君紹介)(第一一二五號)
三三四	同(勝間田清一君紹介)(第一一二六號)
三三五	同(川崎寛治君紹介)(第一一二七號)
三三六	同(河上民雄君紹介)(第一一二八號)
三三七	同(河野正君紹介)(第一一二九號)
三三八	同(木原津與志君紹介)(第一一三〇號)
三三九	同(北山愛郎君紹介)(第一一三一號)
三四〇	同(久保三郎君紹介)(第一一三二號)
三四一	同(久保田鶴松君紹介)(第一一三三號)
三四二	同(奥林三郎君紹介)(第一一三四號)
三四三	同(小林信一君紹介)(第一一三五號)
三四四	同(小松幹君紹介)(第一一三六號)

四七一	同(黒田寿男君紹介)(第一六〇二號)	五〇九	同(八百板正君紹介)(第一六四〇號)	五四四	同(中澤茂一君紹介)(第一七四一號)	五七八	同(島上善五郎君紹介)(第一八六二號)
四七二	同(小松幹君紹介)(第一六〇三號)	五一〇	同(八木一男君紹介)(第一六四一號)	五四五	同(中嶋英夫君紹介)(第一七四二號)	五七九	同(外一件(山口鶴男君紹介)(第一八六三號)
四七三	同(兒玉末男君紹介)(第一六〇四號)	五一一	同(八木昇君紹介)(第一六四二號)	五四六	同(野間千代三君紹介)(第一七四三號)	五八〇	同(米内山義一郎君紹介)(第一八六四號)
四七四	同(佐々木更三君紹介)(第一六〇五號)	五一二	同(矢尾喜三郎君紹介)(第一六四三號)	五四七	同(外一件(長谷川正三君紹介)(第一七四四號)		
四七五	同(佐藤觀次郎君紹介)(第一六〇六號)	五一三	同(安井吉典君紹介)(第一六四四號)	五四八	同(畑和君紹介)(第一七四五號)	五八一	同(赤路友藏君紹介)(第一九〇三號)
四七六	同(佐野憲治君紹介)(第一六〇七號)	五一四	同(柳田秀一君紹介)(第一六四五號)	五四九	同(原茂君紹介)(第一七四六號)	五八二	同(井岡大治君紹介)(第一九〇四號)
四七七	同(齊藤正男君紹介)(第一六〇八號)	五一五	同(山内広君紹介)(第一六四六號)	五五〇	同(平岡忠次郎君紹介)(第一七四七號)	五八三	同(岡田利春君紹介)(第一九〇五號)
四七八	同(阪上安太郎君紹介)(第一六〇九號)	五一六	同(山崎始男君紹介)(第一六四七號)	五五一	同(平林剛君紹介)(第一七四八號)	五八四	同(岡田春夫君紹介)(第一九〇六號)
四七九	同(淡谷悠藏君外一名紹介)(第一六一〇號)	五一七	同(山田耻目君紹介)(第一六四八號)	五五二	同(広沢賢一君紹介)(第一七四九號)	五八五	同(岡本隆一君紹介)(第一九〇七號)
四八〇	同(島本虎三君紹介)(第一六一一號)	五一八	同(山中吾郎君紹介)(第一六四九號)	五五三	同(帆足計君紹介)(第一七五〇號)	五八六	同(加藤勘十君紹介)(第一九〇八號)
四八一	同(田中武夫君紹介)(第一六一二號)	五一九	同(山本幸二君紹介)(第一六五〇號)	五五四	同(三宅正一君紹介)(第一七五一號)	五八七	同(加藤清二君紹介)(第一九〇九號)
四八二	同(田原春次君紹介)(第一六一三號)	五二〇	同(山本弥之助君紹介)(第一六五一號)	五五五	同(山口鶴男君紹介)(第一七五二號)	五八八	同(加藤芳雄君紹介)(第一九一〇號)
四八三	同(多賀谷實松君紹介)(第一六一四號)	五二一	同(米内山義一郎君紹介)(第一六五二號)	五五六	同(山花秀雄君紹介)(第一七五三號)	五八九	同(勝澤芳雄君紹介)(第一九一一號)
四八四	同(橋本兼次郎君紹介)(第一六一五號)	五二二	同(横山利秋君紹介)(第一六五三號)	五五七	同(山本政弘君紹介)(第一七五四號)	五九〇	同(勝岡田清一君紹介)(第一九一二號)
四八五	同(千葉佳男君紹介)(第一六一六號)	五二三	同(渡辺芳男君紹介)(第一六五四號)	五五八	同(山本政弘君紹介)(第一七五四號)	五九一	同(角屋堅次郎君紹介)(第一九一三號)
四八六	同(戸叶里子君紹介)(第一六一七號)	五二四	同(石田有全君紹介)(第一七二二號)	五五九	同(中村庸一郎君紹介)(第一六五五號)	五九二	同(同(金丸德重君紹介)(第一九一四號)
四八七	同(堂森芳夫君紹介)(第一六一八號)	五二五	同(板川正吾君紹介)(第一七二二號)		同(中村庸一郎君紹介)(第一六五五號)	五九三	同(神近市子君紹介)(第一九一五號)
四八八	同(中井德次郎君紹介)(第一六一九號)	五二六	同(外一件(稻村隆一君紹介)(第一七二三號)		同(中村庸一郎君紹介)(第一六五五號)	五九四	同(川崎寛治君紹介)(第一九一六號)
四八九	同(中村重光君紹介)(第一六二〇號)				同(中村庸一郎君紹介)(第一六五五號)	五九五	同(川村健義君紹介)(第一九一七號)
四九〇	同(永井勝次郎君紹介)(第一六二一號)	五二七	同(小川三男君紹介)(第一七二四號)	五六〇	同(赤路友藏君紹介)(第一八四四號)	五九六	同(河上民雄君紹介)(第一九一八號)
四九一	同(檜崎弥之助君紹介)(第一六二二號)	五二八	同(大出俊君紹介)(第一七二五號)	五六一	同(淡谷悠藏君紹介)(第一八四五號)	五九七	同(河野正君紹介)(第一九一九號)
四九二	同(成田知巳君紹介)(第一六二三號)	五二九	同(外一件(大柴滋夫君紹介)(第一七二六號)	五六二	同(井岡大治君紹介)(第一八四六號)	五九八	同(木原津興志君紹介)(第一九二〇號)
四九三	同(西風敷君紹介)(第一六二四號)			五六三	同(井手以誠君紹介)(第一八四七號)	五九九	同(木原実君紹介)(第一九二一號)
四九四	同(西宮弘君紹介)(第一六二五號)	五三〇	同(加藤勘十君紹介)(第一七二七號)	五六四	同(石川次夫君紹介)(第一八四八號)	六〇〇	同(北山愛郎君紹介)(第一九二二號)
四九五	同(野口忠夫君紹介)(第一六二六號)	五三一	同(加藤万吉君紹介)(第一七二八號)	五六五	同(石田有全君紹介)(第一八四九號)	六〇一	同(久保三郎君紹介)(第一九二三號)
四九六	同(芳賀實君紹介)(第一六二七號)	五三二	同(金丸德重君紹介)(第一七二九號)	五六六	同(石野久男君紹介)(第一八五〇號)	六〇二	同(栗林三郎君紹介)(第一九二四號)
四九七	同(華山親義君紹介)(第一六二八號)	五三三	同(神近市子君紹介)(第一七三〇號)	五六七	同(外一件(石橋政嗣君紹介)(第一八五一號)	六〇三	同(黒田寿男君紹介)(第一九二五號)
四九八	同(廣瀬秀吉君紹介)(第一六二九號)	五三四	同(木原実君紹介)(第一七三一號)			六〇四	同(小林信一君紹介)(第一九二六號)
四九九	同(總領七郎君紹介)(第一六三〇號)	五三五	同(小林信一君紹介)(第一七三二號)	五六八	同(板川正吾君紹介)(第一八五二號)	六〇五	同(小松幹君紹介)(第一九二七號)
五〇〇	同(細谷治嘉君紹介)(第一六三一號)	五三六	同(河野密君紹介)(第一七三三號)	五六九	同(稻村隆一君紹介)(第一八五三號)	六〇六	同(兒玉末男君紹介)(第一九二八號)
五〇一	同(堀昌雄君紹介)(第一六三二號)	五三七	同(外一件(佐野進君紹介)(第一七三四號)	五七〇	同(江田三郎君紹介)(第一八五四號)	六〇七	同(和田耕作君紹介)(第一九二九號)
五〇二	同(松前重義君紹介)(第一六三三號)			五七一	同(小川三男君紹介)(第一八五五號)	六〇八	同(井手以誠君紹介)(第一九三〇號)
五〇三	同(松本七郎君紹介)(第一六三四號)	五三八	同(實川清之君紹介)(第一七三五號)	五七二	同(大出俊君紹介)(第一八五六號)	六〇九	同(外一件(伊賀定盛君紹介)(第一九三一號)
五〇四	同(三木喜夫君紹介)(第一六三五號)	五三九	同(島上善五郎君紹介)(第一七三六號)	五七三	同(大柴滋夫君紹介)(第一八五七號)		
五〇五	同(武藤山治君紹介)(第一六三六號)	五四〇	同(下平正一君紹介)(第一七三七號)	五七四	同(大原亭君紹介)(第一八五八號)	六一〇	同(猪俣浩三君紹介)(第二〇一五號)
五〇六	同(村山喜一君紹介)(第一六三七號)	五四一	同(田邊誠君紹介)(第一七三八號)	五七五	同(岡田春夫君紹介)(第一八五九號)	六一一	同(川村健義君紹介)(第二〇一六號)
五〇七	同(森義親君紹介)(第一六三八號)	五四二	同(高田富之君紹介)(第一七三九號)	五七六	同(河野正君紹介)(第一八六〇號)	六一二	同(河上民雄君紹介)(第二〇一七號)
五〇八	同(森本靖君紹介)(第一六三九號)	五四三	同(只松祐治君紹介)(第一七四〇號)	五七七	同(佐野進君紹介)(第一八六一號)	六一三	同(小松幹君紹介)(第二〇一八號)

七四一	同(北山愛郎君紹介)(第二三五一号)	七七七	同(岡田利春君紹介)(第二五三二一)	八二〇	同外三件(太田一夫君紹介)(第二四三	八三七	同(華山親義君紹介)(第二六二六号)
七四二	同(久保三郎君紹介)(第二三五二一)	七七八	同(岡田春夫君紹介)(第二五三二二)	八二一	同外三件(河上民雄君紹介)(第二四三	八三八	同(原茂君紹介)(第二六二七号)
七四三	同(久保田鶴松君紹介)(第二三五三三)	七七九	同(川崎寛治君紹介)(第二五三三三)	八二二	同外三件(細谷治嘉君紹介)(第二四四	八三九	同(平岡忠次郎君紹介)(第二六二八号)
七四四	同(栗林三郎君紹介)(第二三五四四)	七八〇	同(川村義義君紹介)(第二五三四四)	八二三	同外三件(三木喜夫君紹介)(第二四四	八四〇	同(平林剛君紹介)(第二六二九号)
七四五	同(黒田寿男君紹介)(第二三五五五)	七八一	同(木原津與志君紹介)(第二五三五五)	八二四	同外三件(細谷治嘉君紹介)(第二四四	八四一	同(平林剛君紹介)(第二六二九号)
七四六	同(神門至馬夫君紹介)(第二三五五六)	七八二	同(児玉末男君紹介)(第二五三六六)	八二五	同外三件(三木喜夫君紹介)(第二四四	八四二	同(帆足計君紹介)(第二六三一〇)
七四七	同(古川喜一君紹介)(第二三五七七)	七八三	同(淡谷修蔵君外一名紹介)(第二五三	八二六	同外三件(山本弥之助君紹介)(第二四	八四三	同(穂積七郎君紹介)(第二六三二一)
七四八	同外一件(枝村要作君紹介)(第二四四	七八四	同外四件(島本虎三君紹介)(第二五三	八二七	同外三件(山本弥之助君紹介)(第二四	八四四	同(細谷治嘉君紹介)(第二六三三三)
七四九	同(小林信一君紹介)(第二四四七号)	七八五	同(下平正一君紹介)(第二五三九号)	八二八	同外三件(岡澤完治君紹介)(第二六〇	八四五	同(堀昌雄君紹介)(第二六三四四)
七五〇	同(小松幹君紹介)(第二四四八号)	七八六	同(多賀谷眞徳君紹介)(第二五四〇号)	八二九	同外四件(吉田泰造君紹介)(第二六〇	八四六	同(松本七郎君紹介)(第二六三六六)
七五一	同(兒玉末男君紹介)(第二四四九号)	七八七	同外二件(戸叶里子君紹介)(第二五四	八三〇	同外四件(岡澤完治君紹介)(第二六〇	八四七	同(三木喜夫君紹介)(第二六三七七)
七五二	同外二件(後藤俊男君紹介)(第二四五	七八八	同(中澤茂一君紹介)(第二五四二二)	八三一	同外四件(岡澤完治君紹介)(第二六〇	八四八	同(武藤山治君紹介)(第二六三八八)
七五三	同(河野密君紹介)(第二四五一号)	七八九	同(中谷鉄也君紹介)(第二五四三三)	八三二	同外四件(岡澤完治君紹介)(第二六〇	八四九	同(村山喜一君紹介)(第二六三九九)
七五四	同(佐々木更三君紹介)(第二四五二二)	七九〇	同(橋崎弥之助君紹介)(第二五四四四)	八三三	同外四件(岡澤完治君紹介)(第二六〇	八五〇	同(森本靖君紹介)(第二六四〇〇)
七五五	同(佐藤觀次郎君紹介)(第二四五三三)	七九一	同(野口忠夫君紹介)(第二五四五五)	八三四	同外四件(岡澤完治君紹介)(第二六〇	八五一	同(森本靖君紹介)(第二六四〇一)
七五六	同(佐野憲治君紹介)(第二四五四四)	七九二	同(華山親義君紹介)(第二五四六六)	八三五	同外四件(岡澤完治君紹介)(第二六〇	八五二	同(田中武夫君紹介)(第二六四二二)
七五七	同(佐野進君紹介)(第二四五五五)	七九三	同(華山親義君紹介)(第二五四六七)	八三六	同外四件(岡澤完治君紹介)(第二六〇	八五三	同(中谷鉄也君紹介)(第二六四九三)
七五八	同(阪上安太郎君紹介)(第二四五五六)	七九四	同(堀昌雄君紹介)(第二五四八八)	八三七	同外四件(岡澤完治君紹介)(第二六〇	八五四	同(阿部昭吾君紹介)(第二六四九九)
七五九	同(實川清之君紹介)(第二四五七七)	七九五	同(松前重義君紹介)(第二五四九九)	八三八	同外四件(岡澤完治君紹介)(第二六〇	八五五	同(安宅常彦君紹介)(第二七五八八)
七六〇	同(島上善五郎君紹介)(第二四五七八)	七九六	同(松本七郎君紹介)(第二五五〇〇)	八三九	同外四件(岡澤完治君紹介)(第二六〇	八五六	同外一件(阿部昭吾君紹介)(第二七五
七六一	同(淡谷修蔵君外一名紹介)(第二四五	七九七	同(三木喜夫君紹介)(第二五五一〇)	八四〇	同外四件(岡澤完治君紹介)(第二六〇	八五七	同外一件(阿部昭吾君紹介)(第二七五
七六二	同(島本虎三君紹介)(第二四六〇号)	七九八	同(美濃政市君紹介)(第二五五二二)	八四一	同外四件(岡澤完治君紹介)(第二六〇	八五八	同(中井徳次郎君紹介)(第二七六〇〇)
七六三	同(下平正一君紹介)(第二四六一号)	七九九	同(村山喜一君紹介)(第二五五三三)	八四二	同外四件(岡澤完治君紹介)(第二六〇	八五九	同(中嶋英夫君紹介)(第二七六一一)
七六四	同(田中武夫君紹介)(第二四六二二)	八〇〇	同(森義親君紹介)(第二五五四四)	八四三	同外四件(岡澤完治君紹介)(第二六〇	八六〇	同(中澤茂一君紹介)(第二七六二二)
七六五	同(多賀谷眞徳君紹介)(第二四六三三)	八〇一	同(八木一男君紹介)(第二五五五五)	八四四	同外四件(岡澤完治君紹介)(第二六〇	八六一	同(中村重光君紹介)(第二七六三三)
七六六	同(高田富之君紹介)(第二四六四四)	八〇二	同(八木昇君紹介)(第二五五六六)	八四五	同外四件(岡澤完治君紹介)(第二六〇	八六二	同(永井勝次郎君紹介)(第二七六四四)
七六七	同(只松祐治君紹介)(第二四六五五)	八〇三	同(安井吉典君紹介)(第二五五七七)	八四六	同外四件(岡澤完治君紹介)(第二六〇	八六三	同(橋崎弥之助君紹介)(第二七六五五)
七六八	同(武部文君紹介)(第二四六六六)	八〇四	同(山内広君紹介)(第二五五八八)	八四七	同外四件(岡澤完治君紹介)(第二六〇	八六四	同(成田知巳君紹介)(第二七六六六)
七六九	同(安宅常彦君紹介)(第二四六七七)	八〇五	同(山田睦目君紹介)(第二五五九九)	八四八	同外四件(岡澤完治君紹介)(第二六〇	八六五	同(西宮弘君紹介)(第二七六七七)
七七〇	同(阿部昭吾君紹介)(第二四六八八)	八〇六	同(渡辺惣蔵君紹介)(第二五六〇〇)	八四九	同外四件(岡澤完治君紹介)(第二六〇	八六六	同(野口忠夫君紹介)(第二七六八八)
七七一	同(赤路友藏君紹介)(第二四六九九)	八〇七	同(中村重光君紹介)(第二五六一一)	八五〇	同外四件(岡澤完治君紹介)(第二六〇	八六七	同(野間千代三君紹介)(第二七六九九)
七七二	同(井手以誠君紹介)(第二四七〇〇)	八〇八	同(特別区の区長公選に関する請願(本島	八五一	同外四件(岡澤完治君紹介)(第二六〇	八六八	同(芳賀賢君紹介)(第二七七〇〇)
七七三	同(伊賀定盛君紹介)(第二四七〇一)	八〇九	同(地方公務員の定年制反対等に関する請	八五二	同外四件(岡澤完治君紹介)(第二六〇	八六九	同(長谷川正三君紹介)(第二七七〇一)
七七四	同(石野久男君紹介)(第二四七〇二)	八一〇	同(地方公務員の定年制反対等に関する請	八五三	同外四件(岡澤完治君紹介)(第二六〇	八七〇	同(畑和君紹介)(第二七七二二)
七七五	同(石橋政嗣君紹介)(第二四七〇三)	八一一	同(地方公務員の定年制反対等に関する請	八五四	同外四件(岡澤完治君紹介)(第二六〇	八七一	同(密君紹介)(第二七七二三)
七七六	同(枝村要作君紹介)(第二四七〇四)	八一二	同(地方公務員の定年制反対等に関する請	八五五	同外四件(岡澤完治君紹介)(第二六〇	八七二	同(大柴滋夫君外一名紹介)(第二七八〇

八七三	戰傷病者に対する地方税減免に関する請願(小川半次君紹介)(第二七九号)	九〇八	同(兒玉末男君紹介)(第二八九二号)	九四三	同(吉田之久君紹介)(第二九五九号)	九七五	同(堂森芳夫君紹介)(第三〇七二号)
八七四	地方公務員の定年制法制化反対に関する請願(河上民雄君紹介)(第二八三九号)	九〇九	同(淡谷悠蔵君外一名紹介)(第二八九三号)	九四四	同(斎藤正男君紹介)(第二九九九号)	九七六	同(中澤茂一君紹介)(第三〇七三号)
八七五	同(河野正君紹介)(第二八四〇号)	九一〇	同外一件(戸叶里子君紹介)(第二八九四号)	九四五	治体移管に関する請願(猪俣浩三君紹介)(第二九〇五号)	九七七	同(中嶋英夫君紹介)(第三一五四号)
八七六	同(北山愛郎君紹介)(第二八四一号)	九一一	同(中井徳次郎君紹介)(第二八九五号)	九四六	同(神門至馬夫君紹介)(第二九〇六号)	九七八	社会保険等行政事務及び職員の方自治体移管に関する請願(枝村要作君紹介)(第三〇七四号)
八七七	同(久保三郎君紹介)(第二八四二号)	九一二	同(中谷鉄也君紹介)(第二八九六号)	九四七	同(神田大作君紹介)(第二九六二号)	九七九	特別区の区長公選に関する請願外一件(麻生良方君紹介)(第三一七〇号)
八七八	同(久保田鶴松君紹介)(第二八四三号)	九一三	同(西風敷君紹介)(第二八九七号)	九四八	地方公務員の定年制反対等に関する請願(佐藤觀次郎君紹介)(第二九〇七号)	九八〇	地方公務員の定年制法制化反対に関する請願(神門至馬夫君紹介)(第三一二六号)
八七九	同(栗林三郎君紹介)(第二八四四号)	九一四	同(野口忠夫君紹介)(第二八九八号)	九四九	同(穂積七郎君紹介)(第二九〇八号)	九八一	同(福岡義登君紹介)(第三一二七号)
八八〇	同(黒田寿男君紹介)(第二八四五号)	九一五	同(華山親義君紹介)(第二八九九号)	九五〇	同(玉置一徳君紹介)(第二九六〇号)	九八二	同(林百郎君紹介)(第三二八七号)
八八一	同(小林信一君紹介)(第二八四六号)	九一六	同(浜田光人君紹介)(第二九〇〇号)	九五二	同(永末英一君紹介)(第二九六一号)	九八三	同(松前重義君紹介)(第三二八八号)
八八二	同(小松幹君紹介)(第二八四七号)	九一七	同(原茂君紹介)(第二九〇一号)	九五三	地方公務員の定年制実現に関する請願(渡辺繁君紹介)(第二九六八号)	九八四	同(三宅正一君紹介)(第三二八九号)
八八三	同(兒玉末男君紹介)(第二八四八号)	九一八	同外一件(平等文成君紹介)(第二九〇二号)	九五四	地方公務員の定年制法制化反対に関する請願外一件(佐野憲治君紹介)(第三〇一九号)	九八五	同(田邊誠君紹介)(第三三三七号)
八八四	同(河野密君紹介)(第二八四九号)	九一九	同(村山喜一君紹介)(第二九〇三号)	九五五	同(枝村要作君紹介)(第三〇七五号)	九八六	同外一件(広沢賢一君紹介)(第三三七七号)
八八五	同(佐々木更三君紹介)(第二八五〇号)	九二〇	同(安井吉典君紹介)(第二九〇四号)	九五六	同(小川新一郎君紹介)(第三〇七六号)	九八七	事業税及び住民税に青色申告事業従事者の完全給付適用等に関する請願(勝間田清一君紹介)(第三三七六号)
八八六	同(佐藤觀次郎君紹介)(第二八五一号)	九二一	同(小澤貞孝君紹介)(第二九三七号)	九五七	同(大橋敏雄君紹介)(第三〇七七号)	九八八	地方税に青色申告事業従事者の完全給付適用に関する請願(太田一夫君紹介)(第三四〇七号)
八八七	同(佐野憲治君紹介)(第二八五二号)	九二二	同(斎藤美君紹介)(第二九三八号)	九五八	同(木原津興志君紹介)(第三〇七八号)	九八九	地方公務員の定年制反対等に関する請願(春日一幸君紹介)(第三四七三号)
八八八	同(佐野進君紹介)(第二八五三号)	九二三	同(芳賀貢君紹介)(第二九三九号)	九五九	同(兒玉末男君紹介)(第三〇七九号)	九九〇	同外一件(谷口善太郎君紹介)(第三五三二号)
八八九	同(阪上安太郎君紹介)(第二八五四号)	九二四	同(長谷川正三君紹介)(第二九四〇号)	九六〇	同(鈴切康雄君紹介)(第三〇八〇号)	九九一	同(佐藤觀次郎君紹介)(第三六四一号)
八九〇	同(柴田健治君紹介)(第二八五五号)	九二五	同(畑和君紹介)(第二九四一号)	九六一	同(中井徳次郎君紹介)(第三〇八二号)	九九二	同(穂積七郎君紹介)(第三六四二号)
八九一	同(美濃政市君紹介)(第二八五六号)	九二六	同(華山親義君紹介)(第二九四二号)	九六二	同(原茂君紹介)(第三〇八三号)	九九三	同(横山利秋君紹介)(第三六四三号)
八九二	同(八木一男君紹介)(第二八五七号)	九二七	同外一件(林百郎君紹介)(第二九四三号)	九六三	同(廣茂君紹介)(第三〇八四号)	九九四	地方公務員の定年制法制化反対に関する請願(石川次夫君紹介)(第三四七八号)
八九三	同(八木昇君紹介)(第二八五八号)	九二八	同(原茂君紹介)(第二九四四号)	九六四	同(廣茂君紹介)(第三〇八五号)	九九五	同外八件(岡本隆一君紹介)(第三四七九号)
八九四	同(矢尾喜三郎君紹介)(第二八五九号)	九二九	同(平岡忠次郎君紹介)(第二九四五号)	九六五	同(平岡忠次郎君紹介)(第三〇八六号)	九九六	同(金丸徳重君紹介)(第三四八〇号)
八九五	同(安井吉典君紹介)(第二八六〇号)	九三〇	同(平林剛君紹介)(第二九四六号)	九六六	同(伏木和雄君紹介)(第三〇八七号)	九九七	同(神近市子君紹介)(第三四八一号)
八九六	同(柳田秀一君紹介)(第二八六一号)	九三一	同(帆足計君紹介)(第二九四七号)	九六七	同(西風敷君紹介)(第三〇八八号)	九九八	同(河野正君紹介)(第三四八二号)
八九七	同(山内広君紹介)(第二八六二号)	九三二	同(穂積七郎君紹介)(第二九四八号)	九六八	同(太田一夫君紹介)(第三一六六号)		
八九八	同(山崎始男君紹介)(第二八六三号)	九三三	同(細谷治嘉君紹介)(第二九四九号)	九六九	同(工藤良平君紹介)(第三一六七号)		
八九九	同(山田耻目君紹介)(第二八六四号)	九三四	同(堀昌雄君紹介)(第二九五〇号)	九七〇	同(佐々木三郎君紹介)(第三一六八号)		
九〇〇	同(山中吾郎君紹介)(第二八六五号)	九三五	同(三木喜夫君紹介)(第二九五一号)	九七一	同(田邊誠君紹介)(第三一六九号)		
九〇一	同(山花秀雄君紹介)(第二八六六号)	九三六	同(武藤山治君紹介)(第二九五二号)	九七二	地方公務員の定年制反対等に関する請願(只松祐治君紹介)(第三〇六九号)		
九〇二	同(山本幸一君紹介)(第二八六七号)	九三七	同(村山喜一君紹介)(第二九五三号)	九七三	同(橋本次郎君紹介)(第三〇七〇号)		
九〇三	同(山本弥之助君紹介)(第二八六八号)	九三八	同(森義親君紹介)(第二九五四号)	九七四	同(戸叶里子君紹介)(第三〇七一号)		
九〇四	同(山本政弘君紹介)(第二八六九号)	九三九	同(八百板正君紹介)(第二九五五号)				
九〇五	同(阿部昭吾君紹介)(第二八八九号)	九四〇	同(山本幸一君紹介)(第二九五六号)				
九〇六	同(岡本隆一君紹介)(第二八九〇号)	九四一	同(山本政弘君紹介)(第二九五七号)				
九〇七	同(木原津興志君紹介)(第二八九一号)	九四二	同(山本弥之助君紹介)(第二九五八号)				

九九九	同(小林信一君紹介)(第三四八三號)	一〇三三	同(神門至馬夫君紹介)(第三六〇八號)	一〇六五	地方税に青色申告事業従事者の完全給与制適用に関する請願(横山利秋君紹介)(第三五三二號)	一〇九二	地方公務員の定年制法制化反対に関する請願(赤路友藏君紹介)(第三八九八號)
一〇〇〇	同外一件(佐野進君紹介)(第三四八四號)	一〇三二	同外二件(佐野進君紹介)(第三六〇九號)	一〇六四	同外二件(佐藤觀次郎君紹介)(第三六五一號)	一〇九一	同(伊賀定盛君紹介)(第三九〇〇號)
一〇〇一	同(原茂君紹介)(第三四八五號)	一〇三一	同外二十三件(島上善五郎君紹介)(第三六一〇號)	一〇六三	同(石田有全君紹介)(第三八三五號)	一〇九〇	同(伊賀定盛君紹介)(第三九〇〇號)
一〇〇二	同(柳田秀一君紹介)(第三四八六號)	一〇三〇	同(田原春次君紹介)(第三六一一號)	一〇六二	同(枝村要作君紹介)(第三八三七號)	一〇八九	同(池田頑治君紹介)(第三九〇一號)
一〇〇三	同(井上善方君紹介)(第三五二六號)	一〇二九	同(多賀谷眞稔君紹介)(第三六一二號)	一〇六一	同(大出俊君紹介)(第三八三六號)	一〇八八	同外一件(石川次夫君紹介)(第三九〇二號)
一〇〇四	同(河上民雄君紹介)(第三五二七號)	一〇二八	同(高田富之君紹介)(第三六一三號)	一〇六〇	同(勝澤芳雄君紹介)(第三八三八號)	一〇八七	同(池田頑治君紹介)(第三九〇一號)
一〇〇五	同(田中武夫君紹介)(第三五二八號)	一〇二七	同(只松祐治君紹介)(第三六一四號)	一〇五九	同(角屋堅次郎君紹介)(第三八三九號)	一〇八六	同外一件(石川次夫君紹介)(第三九〇二號)
一〇〇六	同外六件(谷口善太郎君紹介)(第三五二九號)	一〇二六	同(堂森芳夫君紹介)(第三六一五號)	一〇六〇	同(勝澤芳雄君紹介)(第三八三八號)	一〇八五	同外二件(井岡大治君紹介)(第三八九九號)
一〇〇七	同(中嶋英夫君紹介)(第三五三〇號)	一〇二五	同(中井徳次郎君紹介)(第三六一六號)	一〇六一	同(勝澤芳雄君紹介)(第三八三八號)	一〇八四	同(石橋政嗣君紹介)(第三九〇四號)
一〇〇八	同(安宅常彦君紹介)(第三五八五號)	一〇二四	同(中澤茂一君紹介)(第三六一七號)	一〇六二	同(角屋堅次郎君紹介)(第三八三九號)	一〇八三	同外三件(枝村要作君紹介)(第三九〇五號)
一〇〇九	同(阿部昭吾君紹介)(第三五八六號)	一〇二三	同(中村重光君紹介)(第三六一八號)	一〇六三	同(川村義義君紹介)(第三八四〇號)	一〇八二	同外二件(大出俊君紹介)(第三九〇六號)
一〇一〇	同(赤路友藏君紹介)(第三五八七號)	一〇二二	同(橋崎弥之助君紹介)(第三六一九號)	一〇六四	同(河野正君紹介)(第三八四一號)	一〇八一	同(大橋敏雄君紹介)(第三九〇七號)
一〇一一	同外一件(淡谷悠藏君紹介)(第三五八八號)	一〇二一	同(成田知巳君紹介)(第三六二〇號)	一〇六五	同(河野正君紹介)(第三八四一號)	一〇八〇	同外三件(折小野良一君紹介)(第三九〇八號)
一〇一二	同外十二件(井岡大治君紹介)(第三五八九號)	一〇二〇	同(野間千代三君紹介)(第三六二二號)	一〇六六	同(神門至馬夫君紹介)(第三八四二號)	一〇七九	同(加藤芳吉君紹介)(第三九〇九號)
一〇二三	同外一件(石川次夫君紹介)(第三五九〇號)	一〇一九	同(長谷川正三君紹介)(第三六二三號)	一〇六七	同(田原春次君紹介)(第三八四三號)	一〇七八	同(勝澤芳雄君紹介)(第三九一〇號)
一〇二四	同(石田有全君紹介)(第三五九一號)	一〇一八	同(原茂君紹介)(第三六二四號)	一〇六八	同(田邊誠君紹介)(第三八四四號)	一〇七七	同外一件(角屋堅次郎君紹介)(第三九一一號)
一〇二五	同(石橋政嗣君紹介)(第三五九二號)	一〇一七	同(平岡忠次郎君紹介)(第三六二五號)	一〇六九	同(多賀谷眞稔君紹介)(第三八四五號)	一〇七六	同(神近市子君紹介)(第三九一二號)
一〇二六	同(枝村要作君紹介)(第三五九三號)	一〇一六	同(平岡忠次郎君紹介)(第三六二六號)	一〇七〇	同(堂森芳夫君紹介)(第三八四六號)	一〇七五	同(川崎寛治君紹介)(第三九一三號)
一〇二七	同(大出俊君紹介)(第三五九四號)	一〇一五	同(平澤文成君紹介)(第三六二七號)	一〇七一	同(中谷鉄也君紹介)(第三八四七號)	一〇七四	同(川崎寛治君紹介)(第三九一三號)
一〇二八	同(加藤勤十君紹介)(第三五九五號)	一〇一四	同(古川喜一君紹介)(第三六二八號)	一〇七二	同(橋崎弥之助君紹介)(第三八四八號)	一〇七三	同(河上民雄君紹介)(第三九一四號)
一〇二九	同(勝澤芳雄君紹介)(第三五九六號)	一〇一三	同(松前重義君紹介)(第三六二九號)	一〇七三	同(原茂君紹介)(第三八四九號)	一〇七二	同(河上民雄君紹介)(第三九一四號)
一〇三〇	同(勝澤芳雄君紹介)(第三五九七號)	一〇一二	同(松本善明君紹介)(第三六三〇號)	一〇七四	同(細谷治嘉君紹介)(第三八五〇號)	一〇七一	同(河上民雄君紹介)(第三九一五號)
一〇三一	同(金丸徳重君紹介)(第三五九八號)	一〇一一	同(松本七郎君紹介)(第三六三一號)	一〇七五	同(松前重義君紹介)(第三八五一號)	一〇七〇	同(河野正君紹介)(第三九一六號)
一〇三二	同(神近市子君紹介)(第三五九九號)	一〇一〇	同(八木昇君紹介)(第三六三二號)	一〇七六	同外一件(矢尾喜三郎君紹介)(第三八五三號)	一〇六九	同外三件(木原津與志君紹介)(第三九一七號)
一〇三三	同(川崎寛治君紹介)(第三六〇〇號)	一〇〇九	同外一件(安井吉典君紹介)(第三六三三號)	一〇七七	同(山田耻目君紹介)(第三八五四號)	一〇六八	同(北山愛郎君紹介)(第三九一八號)
一〇三四	同(川崎寛治君紹介)(第三六〇〇號)	一〇〇八	一〇五七	一〇七八	同(山田耻目君紹介)(第三八五四號)	一〇六七	同(久保三郎君紹介)(第三九一九號)
一〇三五	同(河野正君紹介)(第三六〇二號)	一〇〇七	一〇五八	一〇七九	同(山本政弘君紹介)(第三六三五號)	一〇六六	同(久保三郎君紹介)(第三九一九號)
一〇三六	同(木原津與志君紹介)(第三六〇三號)	一〇〇六	一〇五九	一〇八〇	同(山花秀雄君紹介)(第三六三六號)	一〇六五	同外二件(神門至馬夫君紹介)(第三九二〇號)
一〇三七	同(久保三郎君紹介)(第三六〇四號)	一〇〇五	一〇六〇	一〇八一	同外三件(米内山義一郎君紹介)(第三六三七七號)	一〇六四	同(佐々木更三君紹介)(第三九二二號)
一〇三八	同外六件(工藤良平君紹介)(第三六〇五號)	一〇〇四	一〇六一	一〇八二	同(神田大作君紹介)(第三六三八八號)	一〇六三	同(田原春次君紹介)(第三九二三號)
一〇三九	同(小林信一君紹介)(第三六〇六號)	一〇〇三	一〇六二	一〇八三	同(中村時雄君紹介)(第三六三三九號)	一〇六二	同(田邊誠君紹介)(第三九二四號)
一〇四〇	同外五件(小松幹君紹介)(第三六〇七號)	一〇〇二	一〇六三	一〇八四	同(和田耕作君紹介)(第三六四〇號)	一〇六一	同(多賀谷眞稔君紹介)(第三九二五號)
一〇四一	同外五件(小松幹君紹介)(第三六〇七號)	一〇〇一	一〇六四	一〇八五	特別区の区長公選に関する請願(大柴滋夫君紹介)(第三五二五號)	一〇六〇	同(堂森芳夫君紹介)(第三九二六號)

一二四五	同(阿部助哉君紹介)(第四三六四号)	一二八二	山岳遭難救助活動費の国庫負担に関する請願(小澤貞孝君紹介)(第四四七七号)	一三〇六	同(神門至馬夫君紹介)(第四六〇七号)	一三二九	同(吉川久衛君紹介)(第四五五二号)
一二四六	同(大柴滋夫君紹介)(第四三六五号)	一二八三	同(下平正一君紹介)(第四四七八号)	一三〇七	同(外十一件)佐野憲治君紹介(第四六〇八号)	一三三〇	同(小坂善太郎君紹介)(第四五五三三)
一二四七	同(勝澤芳雄君紹介)(第四三六六号)	一二八四	同(中澤茂一君紹介)(第四四七九号)	一三〇八	同(青藤正男君紹介)(第四六〇九号)	一三三一	同(羽田武嗣郎君紹介)(第四五五四号)
一二四八	同(神近市子君紹介)(第四三六七号)	一二八五	同(林百郎君紹介)(第四四八〇号)	一三〇九	同(飯上安太郎君紹介)(第四六一〇号)	一三三二	地方公務員の定年制反対等に関する請願外八件(岡本隆一君紹介)(第四九一〇号)
一二四九	同(川村継義君紹介)(第四三六八号)	一二八六	同(原茂君紹介)(第四四八一号)	一三一〇	同(外一件)只松祐治君紹介(第四六一一号)	一三三三	地方公務員の定年制法制化反対に関する請願外七件(井手以誠君紹介)(第四九一一号)
一二五〇	同(後藤俊男君紹介)(第四三六九号)	一二八七	同(平等文成君紹介)(第四四八二二)	一三一	同(外十件)内藤良平君紹介(第四六一二二)	一三三四	同(外三件)井上普方君紹介(第四九一二二)
一二五一	同(高田富之君紹介)(第四三七〇号)	一二八八	地方公務員の定年制法制化反対に関する請願外一件(井手以誠君紹介)(第四四五四〇号)	一三二	同(外四件)檜崎弥之助君紹介(第四六一三三)	一三三五	同(石川次夫君紹介)(第四九一三三)
一二五二	同(武部文君紹介)(第四三七一号)	一二八九	同(外一件)石川次夫君紹介(第四五四一)	一三三	同(野口忠夫君紹介)(第四六一四四)	一三三六	同(外五件)石田有全君紹介(第四九一四四)
一二五三	同(只松祐治君紹介)(第四三七二二)	一二九〇	同(外一件)石田有全君紹介(第四五四二)	一三四	同(外一件)畑和君紹介(第四六一五五)	一三三七	同(外一件)江田三郎君紹介(第四九一五五)
一二五四	同(堀兼次郎君紹介)(第四三七三三)	一二九一	同(外一件)枝村要作君紹介(第四五四三)	一三五	同(外二件)平等文成君紹介(第四六一六六)	一三三八	同(外三件)枝村要作君紹介(第四九一六六)
一二五五	同(中嶋英夫君紹介)(第四三七四四)	一二九二	同(外一件)神近市子君紹介(第四五四四)	一三六	同(福岡義登君紹介)(第四六一七七)	一三三九	同(外一件)大原亨君紹介(第四九一七七)
一二五六	同(檜崎弥之助君紹介)(第四三七五五)	一二九三	同(外一件)児玉末男君紹介(第四五四五)	一三七	同(外七件)古川喜一君紹介(第四六一八八)	一三四〇	同(外一件)角屋堅次郎君紹介(第四九一八八)
一二五七	同(西宮弘君紹介)(第四三七六六)	一二九四	同(神門至馬夫君紹介)(第四五四六)	一三八	同(外三件)堀昌雄君紹介(第四六一九九)	一三四一	同(金丸徳重君紹介)(第四九一九九)
一二五八	同(野間千代三君紹介)(第四三七七七)	一二九五	同(佐々栄三郎君紹介)(第四五四七)	一三九	同(外二件)松本七郎君紹介(第四六二〇〇)	一三四二	同(神近市子君紹介)(第四九二〇〇)
一二五九	同(長谷川正三君紹介)(第四三七七八)	一二九六	同(中村時雄君紹介)(第四五四八)	一四〇	同(外五件)三木喜夫君紹介(第四六二一一)	一三四三	同(外四件)川崎寛治君紹介(第四九二一一)
一二六〇	同(原茂君紹介)(第四三七七九)	一二九七	同(外一件)八木昇君紹介(第四五四九)	一四一	同(外一件)三宅正一君紹介(第四六二二二)	一三四四	同(外二件)河上民雄君紹介(第四九二二二)
一二六一	同(細谷治嘉君紹介)(第四三八〇〇)	一二九八	同(外六件)阿部助哉君紹介(第四五九九)	一四二	同(外一件)村山喜一君紹介(第四六二三三)	一三四五	同(外一件)河野正君紹介(第四九二三三)
一二六二	同(村山喜一君紹介)(第四三八一一)	一二九九	同(外二件)伊賀定盛君紹介(第四六〇〇)	一四三	同(安井吉典君紹介)(第四六二四四)	一三四六	同(外五件)工藤良平君紹介(第四九二四四)
一二六三	同(森義親君紹介)(第四三八二二)	一三〇〇	同(外一件)猪俣浩三君紹介(第四六〇一)	一四四	同(外四件)山口鶴男君紹介(第四六二五五)	一三四七	同(外二件)小林信一君紹介(第四九二五五)
一二六四	同(八木昇君紹介)(第四三八三三)	一三〇一	同(江田三郎君紹介)(第四六〇二)	一四五	同(山中吾郎君紹介)(第四六二六六)	一三四八	同(外六件)児玉末男君紹介(第四九二六六)
一二六五	同(米内山義一郎君紹介)(第四三八四四)	一三〇二	同(外四件)大原亨君紹介(第四六〇三)	一四六	同(外一件)米内山義一郎君紹介(第四六二七七)	一三四九	同(外二件)後藤俊男君紹介(第四九二七七)
一二六六	同(井上普方君紹介)(第四四八三三)	一三〇三	同(川崎寛治君紹介)(第四六〇四)	一四七	山岳遭難救助活動費の国庫負担に関する請願(井出一太郎君紹介)(第四五五〇号)	一三五〇	同(神門至馬夫君紹介)(第四九二八八)
一二六七	同(江田三郎君紹介)(第四四八四四)	一三〇四	同(外三件)河野正君紹介(第四六〇五)	一四八	同(小川平二君紹介)(第四五五一)		
一二六八	同(大原亨君紹介)(第四四八五五)	一三〇五	同(外三件)後藤俊男君紹介(第四六〇六)				
一二六九	同(角屋堅次郎君紹介)(第四四八六六)						
一二七〇	同(金丸徳重君紹介)(第四四八七七)						
一二七一	同(久保三郎君紹介)(第四四八八八)						
一二七二	同(佐野憲治君紹介)(第四四八九九)						
一二七三	同(佐野進君紹介)(第四四九〇〇)						
一二七四	同(飯上安太郎君紹介)(第四四九一一)						
一二七五	同(西宮弘君紹介)(第四四九二二)						
一二七六	同(野口忠夫君紹介)(第四四九三三)						
一二七七	同(長谷川正三君紹介)(第四四九四四)						
一二七八	同(平林剛君紹介)(第四四九五五)						
一二七九	同(三木喜夫君紹介)(第四四九六六)						
一二八〇	同(森義親君紹介)(第四四九七七)						
一二八一	同(八木昇君紹介)(第四四九八八)						

員の年金通算に関する諸願、諸願番号第七一五八号を日程に追加し、一括して議題といたします。まず、審査の方法についておはかりいたします。

各諸願の内容については、文書表ですてに御承知のことでもありますし、また先刻の理事会で御検討願いましたので、この際、各諸願について紹介議員の説明聴取等は省略し、直ちに採否の決定に入りたく存じますが、御異議ありませんか。

〔異議なしと呼ぶ者あり〕

○吉川委員長 御異議なしと認めます。よって、そのように決しました。

これより採決いたします。

本日の諸願日程中、第三三、第九八八、第一〇六五及び第一〇六六、第一〇八九ないし第一〇九一、第一一四九、第一二八二ないし第一二八七、第一三二七ないし第一三三一、第一三七〇、第一四一一、第一四一四及び追加日程中第二の各諸願は、いずれも採決の上、内閣に送付すべきものと決するに御異議ありませんか。

〔異議なしと呼ぶ者あり〕

○吉川委員長 御異議なしと認めます。よって、そのように決しました。

残余の各諸願は、いずれも採否の決定を保留いたしたいと存じますので、御了承願います。

ただいま議決いたしました各諸願に関する委員会報告書の作成等につきましては、委員長に御一任願いたいと存じますが、御異議ありませんか。

〔異議なしと呼ぶ者あり〕

○吉川委員長 御異議なしと認めます。よって、そのように決しました。

〔報告書は附録に掲載〕

○吉川委員長 なお、今国会におきまして、本委員会に参考のため送付せられました陳情書は、個人道府県民税にかかる徴収取扱費交付基準改定に関する陳情書外五十七件であります。念のため御

報告いたします。

○吉川委員長 次に、閉会中審査申し出の件についておはかりいたします。

地方自治に関する件
地方財政に関する件
警察に関する件
消防に関する件

以上の各件について、閉会中審査の申し出を議長にいたしたいと存じます。これに御異議ありませんか。

〔異議なしと呼ぶ者あり〕

○吉川委員長 御異議なしと認めます。よって、そのように決しました。

次に、閉会中審査案件が付託になりました場合、本会期中設置いたしました小委員会のうち消防に関する小委員会及び地方公務員等共済制度に関する小委員会につきましては、閉会中もなおこれを存置し、調査を進めたいと存じますが、御異議ありませんか。

〔異議なしと呼ぶ者あり〕

○吉川委員長 御異議なしと認めます。よって、そのように決しました。

また、両小委員会の小委員及び小委員長は従前どおりとし、委員の異動に伴う小委員及び小委員長の補欠選任並びに辞任の許可及び補欠選任につきましては、委員長に御一任願いたいと存じますが、御異議ありませんか。

〔異議なしと呼ぶ者あり〕

○吉川委員長 御異議なしと認めます。よって、そのように決しました。

次に、閉会中の委員派遣の件についておはかりいたします。

閉会中審査にあたり、現地調査の必要が生じた場合には、派遣委員の選定、派遣地、派遣期間等につきましては、委員長に御一任願ひ、議長の承認を求めるところにいたしたいと存じますが、御異議ありませんか。

〔異議なしと呼ぶ者あり〕

○吉川委員長 御異議なしと認めます。よって、そのように決しました。

○吉川委員長 次に、参議院から送付されました内閣提出にかかる地方公務員災害補償法の一部を改正する法律案を議題とし、審査に入ります。

質疑の申し出がありますので、これを許します。依田圭五君。

○依田委員 それでは、項目は少し多項目にわたりますが、簡潔に御答弁いただきまして、質問を進めたいと思います。

まず第一に、本法立案の経過と、その提案の具体的理由について簡潔に御説明を願いたいと思います。

○鎌田説明員 御案内のとおり、昨年十二月一日から地方公務員災害補償法が制定施行に相なつたわけでございますが、その後一酸化炭素中毒によります精神障害あるいは交通事故等によりますところの神経系統あるいは精神障害、こういったものにつきまして、労災補償法の施行規則、省令でございますが、省令におきまして障害等級区分に、今回改正案としてお示しをいたしてござりますところの「精神に障害を残し、服することのできる労務が相当な程度に制限されるもの」とあるいは「神経系統の機能に障害を残し、服することのできる労務が相当な程度に制限されるもの」とこれが挿入をされて、四十二年の十二月からござりますけれども、施行に相なつたわけでございます。そこで、国家公務員あるいは地方公務員同様の内容でございますところの災害補償法の等級区分に、これに対応いたしました区分をつけ加える、こういう必要を生じたわけでございます。したがって、今回このような形で改正案を提出いたしましたして御審議をお願いいたしておる次第でございます。

○依田委員 それに関連してお聞きしますが、自治省のほうで出されている「法律関係資料」の「理由」というところの三行目に、「身体障害の程度を定める表の規定の整備を行なう」、「整備を行

なう」ということばをお使いになっているわけですが、これを単に改正をするとかいうような意味でなくて、整備を行なうということになりますと、具体的な内容は一体何ですか。

○鎌田説明員 「整備」という表現の問題でございますけれども、公務員災害補償法の別表で、身体障害の等級区分を定めておるわけでございまして、その第九級の末尾へ持ってまいりまして、ただいま読み上げました二点を加える、こういうことが「規定の整備」の内容でございます。

○依田委員 そうすると、その前のページにあります二つの項目を加えるということですね。

そうしますと、私ちょっとお聞きしたいのは、災害補償法の別表備考の六に「各等級の身体障害に該当しない身体障害であつて、各等級の身体障害に相当するものは、当該等級の身体障害とすべし」というのがあるわけですが、これを援用すれば、新しく出てまいりました全く新しい種類の災害に対しても、これは適用になるんじゃないか。日進月歩の時代ですから、全く新しい、新種の災害が出てくる、それを予想してこの規定を置かれたと思うのですが、私これと関連か何かで「整備」ということばをわざわざお使いになったのかと思つてお聞きしておるのでありますが、その点に対して……

○鎌田説明員 おっしゃいますとおりでございます。実はこの備考の六号というものが、まさにただいま御指摘になりましたような日進月歩の時代に対応する、こういうねらいを持って挿入された規定であらうというふうに私も理解をいたしておるわけでございます。

ただ、先ほど申し上げましたような経緯で、この労災補償の対象といたしまして、精神なり神経系統の障害の系列といたしまして、従来の七級と十四級の間に一つ九級というものを挿入をする、こういう規定の改正が行なわれましたので、それに対応いたしまして、公務員の災害補償の系列というものに明記をするということのほうが、対象の認定でございますとか、あるいは補償の実施とい

う面において、より適切であろう、こういう配慮に基づくものでございます。

○依田委員 わかりました。そしてやれば別表備考の六でもできぬことはないが、新たに二項を起したほうが親切であろうという立場で立案をされたということについてはわかりました。

そこで、お聞きしたいのは、そういうことになりますと、これに該当します案件といえますか、事件が相当な数があり、また、それに対して認定基準がほぼ予想され、そして、その補償をも含めて相当自治省のほうでコンクリートされておると思いますが、認定基準あるいは扱い等について、また、政令にするのかあるいは通達か何かでなさるのか、その辺をひとつ明確にしたいなと思います。

○鎌田説明員 まず該当する案件があるかというお尋ねでございます。私も現在調査をいたしておりますところにおきましては、明白にこれに該当すると認められる案件はいまのところ発生をいたしておりません。ただ、昨年の十二月でございますか、北海道で道の職員がオートバイから転倒いたしました、それで頭蓋骨折を受けた事例がございまして、治療をいたしておるようでございます。治癒後、その予後の状況によりまして、あるいはこれに該当するということになるかどうか、そこは一つ懸案の問題としてあるようでございます。そのほかのところは、現在のところ該当の案件というものはございません。

それから第二に、これは実は参議院におきましての審議の際にも論議になったわけでございますけれども、たとえば「服することができる業務が相当な程度に制限されるもの」というこの基準は一体何によって求めるべきであるか、こういう基準につきまして何か明確なものがあるか、こういったことが論議になりました。これにつきましては、実際問題といたしましてやはり医学的な見地、それもいわゆる最近におきます神経外科でございますか、こういったものの臨床的な所見というものも総合して判定すべきである。ちょうど

労働省のほうにおきまして、労災補償のほうの省令の改正に関連いたします通達を出してあるわけでございます。私もこの通達をいろいろ熟読いたしておるわけでございますが、なかなか明白なものさしというものがつくりにくい。結局ケース・バイ・ケースによりまして、専門科医の総合所見というものによりまして判定をしようというところになるかと思うわけでございます。私もひとつこの基準と申しますか、施行通達におきまして一応の基準と申しますか、そういうものを示してまいりたい、こういう形で行政指導してまいりたいというふうに考えておる次第でございます。

○依田委員 そのオートバイに乗ってございまして転倒いたしました、その予後の程度によつては法律の発動をいたしたい、しかしそれ以外にはないというお話なんです、精神に障害を残し、服することができない業務が相当な程度に制限されるもの、あるいは十四項は「神経系統の機能に障害を残し、服することができる業務が相当な程度に制限されるもの」というようなことに幅の広い一般的な規定のしかたでは、わざわざ一項を起させまして、親切的な措置だとは思いますが、通達でこれからそれをやるというお話なんです、はっきり認定基準その他についてやっていきますか。争いが起こったりするようなことはないですか。これは審査会の問題についてお聞きしたいのですが、御承知のように、昨年この法律を審査している過程において、労働組合側の参与などもいろいろあいにあっておるか、あとで聞きますけれども、それらを含めて、比較的不服のあれが制度として問題になっておるわけですか。それらを含めてあまりにもばく然たる——ほかの法令もそういう規定のしかたをしておりますからわかりますが、たくさん例がありまして、その例を積み上げて、備考の六号ではもう処理できないから一項目起すというのではなくて、備考の六号という救済方法があるにかかわらずそれを発動しないで、前例もない、北海道に一件だけだという段階で、こう

いう打ち打ち症あるいはガスの問題もあるから、これらを大体予想してこの項目を起さそうではないか、よくわかるのですが、そうなりますと、通達の内容が非常に重要になってくるので、そこを突っ込んでもう一つ御答弁願いたいと思います。

○鎌田説明員 精神神経系統の障害につきましては、今度のこの九級に加えたものを加えまして、一級、三級、七級、九級、十二級、十四級と分かれておるわけでございます。いわゆる一般的な基準といたしましては、一級に該当しますものは、その障害によつて自用を弁ずることができない。第三級になりますと、他人の介護を受けながら多少は自用を弁ずることができ、第七級でございますと、一応労働することができ、軽易な労働しかできない。それから、九級はいまの問題になっておるものでございまして、十二級でございますと、他覚的に精神神経障害が証明される。それから十四級が第十二級よりも軽度。こういうことになっておるわけで、この具体的な認定の基準ということになりますと、当然先ほども申しましたように、精神科なり神経科なり、あるいは神経外科の専門医師の所見というものを総合しながら認定をいたします。またこの認定に對しまして不服がある場合は各支部に審査会があり、また府県にも審査会があるわけでございます。その審査会の審査というものの機会もあるわけでございます。この審査会の委員には専門医の方々をお願いしておるわけでございますし、その場合に、この労災補償の担当をしておられる医師の方を当方の支部の審査会の委員にもお願いをするという形におきまして、その相互にアンバランスの生じないような配慮をいたしておる、こういったところでございまして。

○依田委員 労災と基準法のほうはもう前にきめたわけなんです、これとの関連、あるいは施行期日が違いますが、これとの公平関係、公平な扱い、これらについて一言お聞きしたいと思えます。

○鎌田説明員 労災のほうは四十二年の十月二十五日から等級区分の改正に關します省令が施行になりました、かつその省令の施行前一年間に生じた障害補償の事由にかかわる障害ににつきましては遡及適用をします、こういうたてまえに相なっておりますわけでございます。今般の地方公務員の公務災害補償法の施行に關連いたしましては、ただいま申し上げました現在発生しておる事例で該当しておるものがない。かりにそういうものが、法施行前に該当するものがあるという場合におきましては、先ほど御指摘になられました備考の六号、これを活用いたしまして不公平にならないように措置してまいりたい、指導してまいりたいというふうに考えております。

○依田委員 過去、ちょうど昨年の十二月に発足して三月現在で、最近の統計でどのくらい発生しておりますか。この災害の基金のほうへ申し込んで受理した件数、それを教えてください。

○鎌田説明員 これは十二月一日に発足いたしましたので、この三月三十一日までの資料といたしましてお手元に配付してございますけれども、御案内のとおり、地方公務員災害補償基金の支部は県と指定都市にございまして、県の支部は当該都道府県と、それから当該都道府県内の指定都市以外の市町村の職員の公務災害の補償を処理いたしておるわけでございます。この十二月一日から三月三十一日までの四カ月間におきまして受理をいたしております件数は、いまの都道府県、指定都市全部ひくくると九千二百四十四件でございます。そのうちで死亡事件数が四十七件でございます。この中で処理をいたしましたものが、八千五百五十五件、うち死亡事件三十三件、こういうことに相なっております、差し引き六百八十八件がこの三月三十一日の時点におきましては未処理と相なっております、こういう状態でございまして。

○依田委員 自治省側の資料によりますと、警察官が非常に多いんですね。これは参議院の速記を読むと問題になっておりますが、その府県からよそへ出かけて行って広域警備といいますが、たと

えは成田の問題でも福岡の博多の問題でも、よその府県の警察官が動員されて、そして自分の所属しているところでない他の府県において災害をこうむった場合、警察官全体としては四割、そのうちの何件か知りませんが、そういう案件が非常に多いということが資料を読むとわかるのです。その点について少しおかしいのではないかとこのことを感ずるのですが、御答弁願いたいと思います。

○鎌田説明員 実はそういう議論がよくあるわけでございます。これは制度の成り立ちということにも関連するわけでございますけれども、警察職員の場合でございますと、やはり広域的な出動ということが警察法のたてまえとしても前提になつておるわけでございます。現在の公務員災害補償基金制度の補償は各都道府県あるいは指定都市がそれぞれの基金というものを持ち寄ります。全国一本の基金というものをつくっておる、資金をそういう意味においてプールいたしまして、それぞれの地方団体職員の災害補償というものに充てておる、こういうことでございますので、いまの警察官が当該都道府県の区域外に出動いたしました受けた災害というものにつきましても、各地方団体がいわば持ち寄りました共同の資金のプールの中で支弁をする、こういう形になつておりますので、その点は何と申しますか不合理というふうには考えておらないのでございます。

○依田委員 各府県が府県単位でやつていこうというたてまえなのに、よその府県で当然負担すべき、よその府県に所属しておる人の出張先の問題でもってその所属をしない、まあ出張をされたほうの果が多額の負担をするということは警察官がほとんどであつて、他の場合も若干はもちろん公務出張中でありまうからには言えないでしようけれども、統計によると警察官が一番多いということについては、何らかその制度なりあるいは国庫負担の方法なり、何かしないとおかしいのではないかと、こう思うのですが、重ねて御質問いたします。

○鎌田説明員 これは議論になるかとも思うわけでございますけれども、それぞれの府県ごとにそれぞれの災害が発生いたしましたのでその当該県の財政支出をもちまして補償を行なう、こういうことになりまうと、ただいま御指摘になりましたような懸念が多分にあると私は思うわけでございますけれども、それを各地方団体で、先ほどからの答弁の繰り返しになるわけでございますが、持ち寄りますので、そこで全国一本の基金をもつてプールをしておる、そういう形で補償の支出をしてまいるということになりますと、まあ具体的な例にわたつて恐縮でございますが、あるいは千葉、あるいは長崎、あるいはその団体が、お互いに広域出動、あるいは災害の規模によりましては、将来そういうことも、ある意味におきましてはお互いさまと申しますか、そういう面もあるわけでございますので、その点は何とか説明がつくのではないだろうかという感じがいたしておるわけでございます。

○依田委員 消防庁長官の佐久間さんにお聞きいたします。これは、この制度をやつてから実際にいろいろの統計が出ておるわけですが、たとえば、従来やつておるのより時間がかかるのではないかと、この心配についても、すでに資料の上でもって、平均が三十日であるとか何とか出ておる。それで、何といひましても、消防庁の職員の、特に若い方々が非常に災害を受ける率が高いわけですね。勝島の倉庫のような場合もありまうし、それらを含めて、本制度に対する長官の一般的な批判といひまうか、御見解を聞きたいのです。

○佐久間政府委員 消防職員につきましては、従来各市町村ごとによつておつたわけでございますが、市町村ごとでございまして、やはり認定もばらばらになるというふうなこともございまして、また、一時に相当な該当事者が出ました場合の市町村の負担の問題もございまして、私はやはりそういう基金制度ができましたことは、従来の事態の一步前進であるというふうに考えておるわけでございます。

御承知のように、現在消防団員につきましては、すでに数年前から同様な制度ができてまして、この公務災害補償につきましても、その運用の経過を見てまいりますと、非常に実績をあげておるようでございます。したがって、消防職員につきましてもこの制度がおよそ円滑に運営されてまゐる、たいへん実績をあげていくことになるんではないかと思つております。

ただ、一般職員と消防職員と、いろいろ災害を受ける状況が、職務の性質が違ふ点で特殊性もあるうかと思ひますので、そういう特殊性はよく基金のほうで御理解をいたしまして、適切な処置がなされるように、私どもとしても今後留意をしてまいりたい、かような感想を持つておるわけでございます。

○依田委員 自治省にお聞きしますが、この前の災害補償法の創設のときに附帯決議が三カ条つておりました。一つは、基金の民主的運営が確保されるために、基金の運営審議会の学識経験者のうちに職員代表を選ばれたというのが一点。それから、第二項は、地方公務員災害補償基金審査会の審査にあつては、あらかじめ、職員を代表する者の意見を求めること等適切な措置を講ぜられた。三つ目は、公務災害による年金受給者の等の生活を保障するため、スライド規定実施のための具体的措置についてすみやかに検討されたといふ三カ条がついておりました。これの実施状況をひとつ簡潔に御答弁願いたいと思ひます。

○鎌田説明員 まず第一点の、基金の運営審議会の委員に職員を代表する者を選任するという点につきましても、六名中三名、日教組の社会保障対策部長、自治労の副委員長、全水道の副委員長のお三方を選任いたしてございます。

それから、次の基金審査会の審査にあたりまして、いわゆる参与制度を設けるということにつきましても、本部の審査会の参与に、自治労の社会保障部長、都市交通の福利対策部長、それから高教組の厚生部長、このお三方をすでに選任してございまして、

ざいします。それから、支部の審査会につきましては、それぞれの支部におきまして審査会の参与について人選をすでに終つたところもございまして、また現在進めておるところもございまして、いずれもそういう附帯決議の趣旨に沿つて措置をし、あるいは措置をする予定になつております。

それから、年金のスライド規定の問題につきましても、これは共済小委員会におきましてもスライドの問題を御審議になつたわけでございますけれども、恩給審議会の答申が出た経緯もございまして、現在公的年金につきましても、関係各省におきまして公的年金制度調整連絡会議というものにおいて検討中でございますが、関係各省でいろいろな案を出しながら、その長短是非を、財政負担の問題も含めまして、早急に結論を出すように検討中でございます。

○依田委員 第一、第二項はわかりました。三項のスライドの問題なんです、連絡協議会でせっかく検討中である、これのおおよその見通しをひとつお立てになつていただくわけにはいきませんか。

○鎌田説明員 これは昨年の六月に公的年金制度調整連絡会議が発足いたしました、昭和四十二年六月から一四年中に結論を出すということになつておるわけでございます。ちょうど恩給審議会の答申におきまして、いわゆる五%の消費者物価指数の上昇というものを目安にしてスライドするという方向は出されたわけでございますけれども、その公務員の場合の年金、これは障害年金も含めてでございますけれども、いわゆる公務員給与といふもののものさしもあわせて検討する必要があります。あるのではないかと。賃金スライドによるか、物価スライドによるか、こういった問題もございまして、あるいは他の年金制度に比べまして、いわゆる公務員の特殊性というものが、公務員年金の特殊性というものが客観的に打ち出せるかどうか、こういった点の議論も含めまして、公的年金全体を通ずるものさしというものが、公

務員関係の年金のものとさしというものがつくれるかどうか、こういった議論を現在精力的に行なっておるという段階でございます。

○依田委員 支部審査会のことについて聞きますが、附帯事項の参与という形、これは既存の支部の中でどのぐらいその制度をもうすでに確立というか任命なさっておるかを明らかにしてください。

○鎌田説明員 現在半数程度の府県におきまして、支部の審査会を設置いたしております。いま私の手元に持っております資料によりますと、たとえば岡山県支部の場合は、自治労と教組、四人の参与の方の中でこの二人、あと岡山市の職員、それから警察本部の職員、こういった者を参与にいたしておるわけでございます。大体どの県におきましても、そういった構成に相なっておりますようにございます。

○依田委員 基金の財政といいますが、収納状況について簡単に一言。

○鎌田説明員 これも前回配付してございます資料の二ページに掲記してございますが、負担金の収入状況は、これはいわゆる普通負担金と特別負担金に分かれておるわけでございます。普通負担金の場合、四十三年三月三十一日現在でございますが、四十二年は年度中途の発足でございますが、計画額といたしましては五億四千五百万円普通負担金を収納する予定でありましたが、三月三十一日現在におきまして収入済み額は五億二千九百万円でございます、九七％の収入状況になっております。また、特別負担金の方は、計画額四千九百万円に對しまして収入済み額が五千三百万円、一〇八％の収入状況に相なっております。

これを対象団体によってみますと、普通負担金の方は、対象団体四千九百三十三団体に對しまして、納入済みの団体が四千三百七十八団体、八九％。特別負担金の場合でございますが、三十五団体に對しまして三十三団体、収入割合は九四％という状況に相なっております。

○依田委員 公務の認定請求が出た、それに対して公務上の災害であるという認定をしたという案件の比率について、お話を願いたいと思っております。

○鎌田説明員 先ほど処理件数八千五百五十五件ということをお聞き上げましたが、四十二年の十二月一日から四十三年の三月三十一日までの間の処理件数八千五百五十五件のうちで、公務上と認定をいたしましたものが八千五百四十件、公務外と認定をいたしましたものが十五件でございます。で、ほとんどと言ってもいい処理状況でございます。

○依田委員 十五件はどういうことで認定されたのか聞きたいのですが、それは次回にいたしまして、非常勤職員の問題について一言お聞きします。

非常勤職員のうち労災保険の非適用の者に対しては、各地方公共団体の条例で災害補償を行なうことにしているわけであります。その条例の制定状況、これをひとつわかりましたら御答弁願います。

○鎌田説明員 二月二十四日現在でございますので、ちょっと資料が古うございますが、都道府県、六都市は全部条例は制定済みでございます。それから市町村におきましては、三千三百一十町村のうち三百九十二市町村が未制定でございます。ただ、この三百九十二市町村のうちでこの三月中に制定を予定いたしておりますものが、当時の調査で三百五十八市町村でございますので、三月の時点で三十四市町村が未制定ということになります。おそろく現在の時点におきましてはほとんどすべて制定をいたしておるのではないかと、いうふうに考えておる次第でございます。

○依田委員 それからもう一つ、災害補償法をつくりましますときに、すでに都道府県などの段階で独自の条例があったわけですね。その内容を、既得権の尊重というような立場で調整をどうするかという問題が、昨年はだいぶ問題になったのです。その点の自治省の指導といえますか現況について、一言聞かせてください。

○長野政府委員 この法律によりましますところの公務災害補償の内容以上に地方団体が上のせをする、当時いろいろ御議論になりました上のせ論の問題だと思えますが、上のせにつきましては、地方団体が独自でその上にのせることにつきましては、自治省としてそれに対してあえて異を唱えるつもりはない。ただ現在の公務災害補償の内容は、相当水準の高いものである、おそろくこれで十分と言っている語弊があるかもしれませんが、大体まかなっているのではないかと、現状におきましてプラスアルファというような形で災害補償の上に上つけ足しまして、あるいはつけ足すに足さないというようなことで議論になっておるような地方団体の実情はほとんどないようでございます。まして、大體公務災害補償の内容としてはこの法律によるものでやっております、それ以外に特別に災害補償というものでない形、いわゆる実質上の上のせをやっておるというところは多少あるようでありまして、その点の詳細はまだつまびらかにいたしておりません。

○依田委員 中曾根大臣が最近自賠法の金額をたしかに三百萬から五百萬に引き上げる準備をしておるような新聞報道を記憶しておるのですが、それとの関連でお聞きしたいのですけれども死亡事故の場合の遺族補償なんです、これを一時金と年金の併給が何かの制度に改正して、もう少し一時金を上げないと、自賠法との均衡でも全くお話にならないようなアンバランスが出てまいっているのですが、これについての改善策を何かお考えになっておたら明らかにしてもらいたいと思っております。

○鎌田説明員 この自賠法の場合の補償と、それから公務災害補償の内容につきましては、前からいろいろ議論があるところでございます。特にこの災害補償一時金なりあるいは遺族補償一時金というものにつきましては、自賠法よりも不利となる場合もあるようでございますが、お話ししている、一言聞かせてください。

とおり、地方公務員の公務災害の補償の内容は、国家公務員の公務災害補償の内容にならうという制度のたてまえがございまして、やはり地方公務員の公務災害補償だけ特異な扱いをするということにつきましては、制度的な困難がございまして、なお自賠法の制度改正の動き等も見ながら、大蔵当局とも連絡をとって検討をさせていたきたいと思ふ次第であります。

○依田委員 その提案を早くやってもらわぬと、自賠法のほうが急ピッチで上がっていきまします、おくれおくれになって法の保護が非常に不均衡を来しますから、ひとつ全力をあげてもらいたいということを要望しておきます。

それからもう一点、最後にお聞きいたしますが、平均給与額は事故発生の際の三ヶ月間ということになっておるのですが、その中に期末、勤勉、そういうものを全然入れておらない。ですから特に若年労働者のような場合は、平均賃金の算定方法と算定基礎が非常に弱いものですから、あれは大きな問題になったと思うのですが、どこか水道局の職員で公務中にたいへんな災害を受けて、その補償があまりにも少なく、たいへんおこりまして、世論に訴える形でもって新聞報道がなされたことを私は覚えておるのですが、これについての改善策を具体的に何かお考えになっておらなければおかしと思うのですが、この点、公務員部長に御答弁願いたいと思っております。

○鎌田説明員 この点につきましては、先ほどの自賠法の問題に関連いたしましてお答え申し上げましたことと関連するわけでございまして、この平均給与月額制度の立て方が、御案のとおり期末、勤勉手当というものを含んでおらないのは事実でございます。これは国家公務員の災害補償の場合と地方公務員の場合と同様の立て方でございますので、いまの御指摘の点、まことに気の毒な事情もあると思うわけでございまして、何ぶん制度の基本に触れる問題でございますので、引き続き検討させていただきたい、現在の段階におきましては、ちょっとそれ以上のことはお答えで

きない状況にございます。

○依田委員 どうも質問点に対してほとんど明確なる御答弁をいただけないまま時間が過ぎましたのでやめるのですが、最後に要望を強くいたしておきます。

それは附帯決議の第二項でしかたの支部審査会に対する参与関係のまだ未決定のところを早急に促進をしていただきたい、こういうことをお願いして、私の質問を終わります。

○吉川委員長 これにて本案に対する質疑は終局いたしました。

○吉川委員長 これより討論に入るのであります。別討論の申し出もありませんので、直ちに採決いたします。

本案に賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○吉川委員長 起立総員。よって、本案は原案のとおり可決すべきものと決しました。(拍手)

○吉川委員長 この際、塩川正十郎君、山口鶴男君、折小野良一君及び小濱新次君から、四派共同をもってたゞいま議決いたしました本法律案に対し附帯決議を付すべしとの動議が提出されております。

この際、本動議を議題とし、その趣旨の説明を求めます。塩川正十郎君。

○塩川委員 それでは附帯決議につきまして、その要項並びに趣旨を説明いたしたいと存じます。

地方公務員の公務災害補償に關しまして、給付の改善、特に死亡事故の遺族給付を一時金と年金の併給等を検討すること。二番目に、平均賃金の算定方法とその算定基準を早急に改善すること。三番目は、警察官の補償件数がきわめて多いが、この大きな原因は、警備動員にあることにかんがみ、国の命令による場合は国において補償すべきである。

以上三点につき御審議を賜わり、可決賜わらんことをお願いいたします。(拍手)

昭和四十三年五月三十日印刷

〔参照〕

地方公務員災害補償法の一部を改正する法律案に対する附帯決議(案)

政府は、本法の施行にあたり左の諸点に留意すべきである。

一、給付の改善、特に死亡事故の遺族給付を一時金と年金の併給とする等について検討すること。

二、平均賃金の算定方法とその算定基準を早急に改善すること。

三、警察官の補償件数が極めて多く、その主たる原因は、警備動員にあることにかんがみ、国の命令による場合は国において補償すること。

右決議する。

○吉川委員長 本動議について採決いたします。

本動議に賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○吉川委員長 起立総員。よって、塩川正十郎君外三名提出の動議のごとく附帯決議を付することに決しました。

この際、赤澤自治大臣から発言を求められておりますので、これを許します。赤澤自治大臣。

○赤澤国務大臣 たゞいまの御決議の趣旨は、十分検討いたしたいと考えます。(善処するのじやないのか)と呼ぶ者あり)善処いたします。

○吉川委員長 参議院から送付されました内閣提出にかかる消防法及び消防組織法の一部を改正する法律案を議題といたします。

本案に対する質疑は終局いたしました。

○吉川委員長 これより討論に入るのであります。別討論の申し出もありませんので、直ちに採決いたします。

本案に賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

昭和四十三年五月三十一日発行

○吉川委員長 起立総員。よって、本案は原案のとおり可決すべきものと決しました。

○吉川委員長 この際、古屋亨君、細谷治嘉君、折小野良一君及び小濱新次君から、四派共同をもって、たゞいま議決いたしました法律案に対し附帯決議を付すべしとの動議が提出されております。

この際、本動議を議題とし、その趣旨説明を求めます。古屋亨君。

○古屋委員 私は、この際、消防力の充実強化をはかるため、自由民主党、日本社会党、民主社会党及び公明党を代表し、消防法及び消防組織法の一部を改正する法律案に対しまして、次の附帯決議を付したいと存じます。

案文の朗読により趣旨説明にかえさせていただきます。

消防法及び消防組織法の一部を改正する法律案に対する附帯決議(案)

政府は、消防の現況にかんがみ、特に左の諸点について留意すべきである。

一、市町村の実態に即して消防力を一層充実強化するため、十分な消防財源を賦与すること。

二、救急業務を現に実施している市町村に対し、所要の財源措置を講ずること。

三、観光地、高層建築物、港湾等における消防体制の整備を早急に促進すること。

四、社会、経済の変化に即応するよう、すみやかに消防力の基準を再検討し、年次計画を樹立して、その実現をはかること。

右決議する。

何とぞ皆さんの御賛同をお願いいたします。

○吉川委員長 本動議について採決いたします。

本動議に賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○吉川委員長 起立総員。よって、古屋亨君外三名提出の動議のごとく附帯決議を付することに決しました。

この際、赤澤自治大臣から発言を求められておりますので、これを許します。赤澤自治大臣。

○赤澤国務大臣 たゞいまの御決議は、一々ごもつともだと思ひますので、御趣旨につきましては、十分検討の上、御期待に沿うよう善処いたしたいと思ひます。

○吉川委員長 おはかりいたします。

たゞいま議決されました両案に対する委員会報告書の作成等につきましては、委員長に御一任願いたいと存じますが、御異議ありませんか。

〔異議なしと呼ぶ者あり〕

○吉川委員長 御異議なしと認めます。よって、そのように決しました。

〔報告書は附録に掲載〕

○吉川委員長 この際、暫時休憩いたします。

午後一時二分休憩

〔休憩後は会議を開くに至らなかった〕

衆議院事務局

印刷者 大蔵省印刷局